

# 第一回ソウル市立大学県立広島大学学術交流会の報告書

(平成 26 年 10 月 30 日～平成 26 年 11 月 1 日)



10/30 広島空港にて

経営情報学部経営学科 久保田美季  
中野 優子  
難波 勇人  
日野 遥

2014年11月5日

## 韓国研修報告

県立広島大学大学院 総合学術研究科 経営情報学専攻  
学籍番号 1322008・1322007  
平崎 悠樹・檜垣 勇太

今回の韓国研修旅行では、異文化交流を通じて私たちの見識が広がるという非常に良い機会となりました。韓国という国は日本の隣国であり、K-POPや韓流ドラマなどの韓国文化が流行している一方で、政治的な側面から韓国に対し親しみを持たない人が多いようにも感じます。しかし、今回私たちが実際に韓国へ訪れることで、韓国への印象、イメージは激変しました。これから私たちが感じた韓国について、いくつかの写真を交えながら報告したいと思います。

まず、広島から韓国へは飛行機で、およそ1時間10分で到着しました。韓国に近いということは認識していましたが、こんなにも早く到着したことには驚きました。また、時差もなく、10月下旬の気候はほんの少し肌寒いですが、天気にも恵まれ大変過ごしやすいという印象でした。仁川国際空港に到着し、看板や広告に書かれているハングル文字を見て、韓国に来たことを実感しました。また、仁川国際空港はハブ空港であるため、規模の大きさに驚きました。

韓国への代表的なイメージと言えばやはり“辛い”でしょう。それは間違っていないませんでした。本当に韓国の料理は全て辛いと言っても過言ではないでしょう。辛い物好きには良いかもしれませんが、私たちは全てのものが辛いことに慣れるのに苦労しました。しかしながら、本当においしく、一般的に日本



1 チャンポン麺

人の口には合うと思います。旅行が決まった時、韓国で何がしたいか、何を学びたいかと考えたとき、まず真っ先に思いついたのは食文化でした。日本と韓国は両国ともお米を主食とする国です。そして日本には数多く韓国発祥の食べ物があります。そういった背景から、韓国の食文化には非常に興味がありました。また、食事の際に、引率して下さった朴教授から、韓国では食事を取るとき、食器を持って食べることはタブーでありマナー違反だということを教えていただき、日本人の感覚と全く逆の考え方があることを知りました。

ある場面に遭遇しました。仁川国際空港から地下鉄でソウル市街へと向かいましたが、車内で若者が老人に席を譲るという場面に遭遇しました。これには大変感銘を受けました。韓国は儒教の国なので、年長者、また老人を敬うというのは当然で、若者にまでその教えが行き届いていると聞きました。もちろん、日本でも見られる光景ではありますが、韓国人ほどその感覚は持っていないように感じました。交通網に関しては、ソウル界隈の地下鉄網の発達はすさまじいです。事前に韓国について調べた通りで、日本と比べて物価はそんなに変わりはないですが、食費と交通費は日本より2,3割安い印象を持ちました。

ソウル市街を徘徊したとき、町は観光客で賑わっており、日本語を理解できる現地人も数多くいました。古い歴史を感じさせるレンガ造りの建物が多く見られ、それと同時にコンビニなど新しい建物もありました。さらに、歴史的な名所として南大門などを訪れました。2006年に焼失してしまいましたが、今では再建されていました。

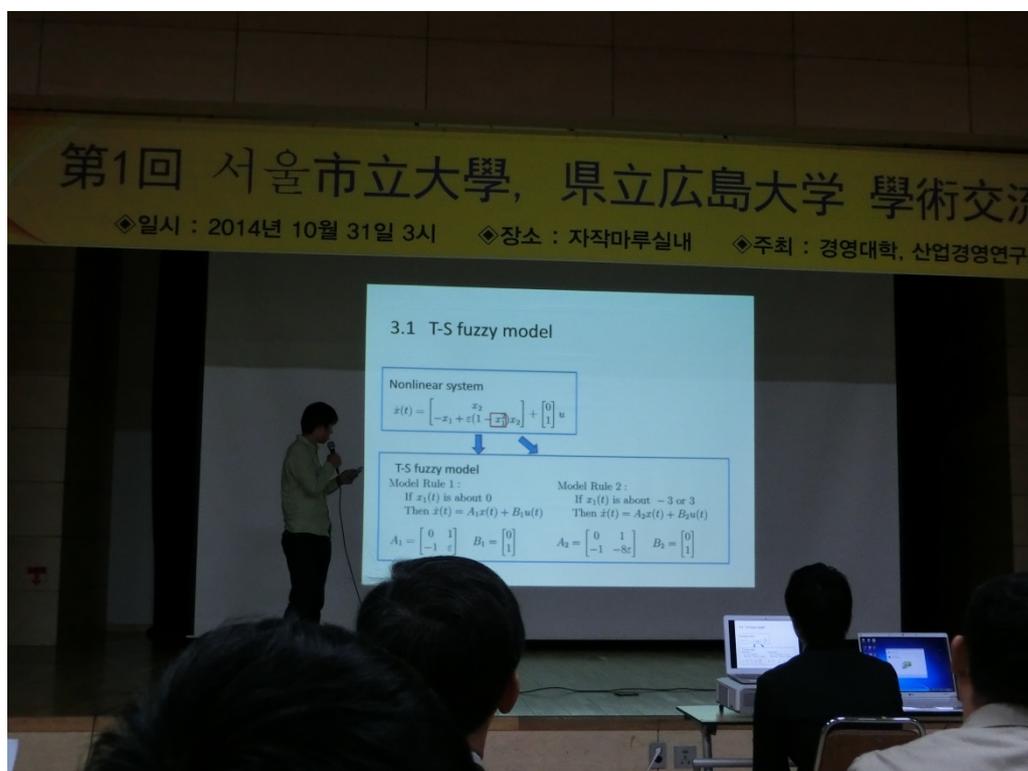


## 2 南大門にて記念撮影

次に、今回の旅行の主たる目的である学術交流会について報告します。まず、県立広島大学とソウル市立大学との学術交流会は今回が初めてとのことで、記念すべきこの交流会

に参加できたことに大変嬉しく思いました。また、ソウル市立大学内には、今回の交流会の横断幕が掲げられており、歓迎されていることに感激しました。両大学とも3グループずつ発表を行いました。全て英語での発表ということもあり、英語で話を理解するのは容易なことではありませんでした。私たち2人はファジィ制御という分野について簡単に発表させてもらいました。今回の学術交流会は主に経営学を専攻する学生を対象にしたものでしたので、文系の方々に私たちの発表がどのくらい理解してもらえたかという点では不安が残りました。しかし、練習の成果もあり、慣れない英語での発表でしたがとても良い発表ができたのではないかと思います。

また、韓国の学生の発表ですが、みなさん非常に英語が堪能で、綺麗な発音をされていました。これにはとても驚きました。韓国では小学生から英語学習に取り組んでいるようで、大学では英語で授業が行われるという場合もあるそうです。日本でも英語教育には近年力を入れています。韓国の学生と比べてやはりまだまだ能力は劣っているのではと思ってしまいました。少なくとも私たちは彼らより英語が上手ではありませんでした。日本では“英語は必要ないから能力が向上しない”という意見もあり、母国語のみで教育を受けられる日本を恵まれているとも捉えられますが、一方でこのグローバルな時代としてはいかがなものかと思えます。やはり、グローバルな時代では英語は必要不可欠なスキルですので、今回の経験は英語に対する意識の向上にとっても良いきっかけにもなりました。



### 3 私たちの発表の一幕

発表を終え、夜に宴会を開いていただきました。彼らの多くは日本語が理解できない方

たちでしたので、コミュニケーションを取ることに苦労しました。英語での会話は簡単なことではないのを再認識しました。つたない英語でしたが、彼らと交流できた時間はとても良い経験になりました。その中の1人とはSNSで連絡先を交換し、友達になることができました。お互い話す言葉は違っても、こうやって友好的な関係を築けることができるということが分かり、とてもうれしく思いました。



#### 4 宴会で振舞われたプルコギ

最後に、この研修旅行を通じての総評を述べたいと思います。現在の日本と韓国との関係はあまり良くないのは周知の事実です。両国間には、歴史問題をはじめ数多くの問題が残存します。私たちは、行く前は新聞やニュース、インターネットなどから韓国に対して悪いイメージも持っていました。しかし、間違った認識をしているのではないかと考え、自分自身で韓国という国を見て確かめ、何か感じたいという思い参加を決意しました。そして、今回の研修は私たちにとって非常に良い経験となりました。実際に訪問した韓国は、以前から抱いていたイメージとは全く異なっていました。ソウル市立大学の学生たちは本当に私たちに親切でした。また、ソウルで道を尋ねたときには、丁寧に道を教えてくださいました。日本のことが好きな韓国の学生にも出会えて、ネット上で揶揄されるような“韓国人”はそこにはいませんでした。国レベルでの争いやわだかまりは確かに存在しますが、その国民同士が対立するようでは悲しいです。割り切った考えを持ち、昔のようにK-POPや韓流ドラマに代表されるような文化を通じて交流をしていければよいと感じます。これからの両国の友好、発展を願いたいと思います。

## ソウル市立大学との学術交流及び国際交流推進のための講演会：報告書

経営情報学部 経営学科 3年 田口ひかる  
川添可南子  
和田森奈津美  
大学院 1年 李 昂

### 研修内容

今回の研修では、韓国の提携校であるソウル市立大学経営学部の教員・学生との学術・教育交流会[10月30日(木)・31日(金)・11月1日(土)]に引率の教員2名と経営情報学部の学生(院生含む)10名が参加しました。県立広島大学側が、ソウル市立大学を訪問し、両校の学生による研究成果を発表しあう研究交流会が行われました。また、ソウル市立大学の学生との交流を深めるために、ソウル市内の名所を見学しました。



### 日程

	内容
10月30日(木)	午前 広島空港から仁川空港へ移動 午後 ソウル市立大学到着、ソウル市立大学の学生と交流
10月31日(金)	午前 キャンパスツアー、発表会準備 午後 研究会発表(15:00~17:30) 発表原稿 英語(15分)、質疑応答 日本語・韓国語(5分)、 両校の挨拶と本発表会、歓迎パーティー
11月1日(土)	午前 ソウル市内観光 午後 広島空港到着

## ソウル市立大学との学術交流会

- 1 開会の辞 – Park, Chongchan 学部長
- 2 ソウル市立大学校経営大学  
学長挨拶 – Park, Kwanghoon 学長
- 3 県立広島大学経営情報学部挨拶
- 4 学生発表



ソウル市立大学との学術交流会の発表時間とタイトル表

時間	所属	発表タイトル	発表者
15:10-15:30	ソウル市立大学	모두들 - 송도들 중심요	박수민, 강호진
15:30-15:55	Prefectural University of Hiroshima	Fuzzy control	Yuta Higaki, Yuki Hirasaki
16:00-16:20	ソウル市立大学	Design thinking을 활용한 서울특별시도청사 역대 광고주의 개선방안	유정훈
16:20-16:35	休憩		
16:35-16:55	Prefectural University of Hiroshima Park's sminar	The Corporate Value Analysis of AutomobileManufactures in Japan	Hikaru Taguchi, Kanko Kawazoe, Natsumi Wadamor, Ang Li
17:00-17:20	ソウル市立大学	아리수의 IMC 전략	손지영, 박건호, 이경민
17:25-17:45	Prefectural University of Hiroshima Wada's seminar	OSAKA SAMURAI SPIRIT	Yuko Nakano, Hayato Nanba, Haruka Hino, Miki Kubota

私たちのグループは、「The corporate value analysis of automobile manufactures in JAPAN」という題で日本の自動車産業の価値分析について発表しました。

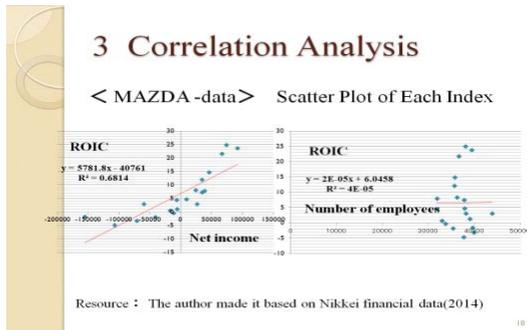
日本の有名な自動車産業である、MAZDA、NISSAN、TOYOTA の3社を取り上げ、企業の成果を測定するため、存続期間、従業員数、当期利益、ROIC という4つの指標を用いた Barney の理論に基づいた分析を行いました。



### 1 Introduction

	 TOYOTA	 NISSAN	 MAZDA
Year of the founding	1937	1933	1920
Home city	Aichi	Kanagawa	Hiroshima
Production volume	9,032,165	3,760,143	982,540
Sales ranking in Japan	1	2	5

分析する際に用いた指標の数値は、日経財務データというソフトを利用しましたが、膨大な量のデータのなかから必要な数値だけを抽出する作業はとても大変でした。また、それぞれの指標に相関関係があるかどうかを調べることで、より簡単な分析を行えるのではないかと考えました。



発表の準備期間が短かったため、授業のあとや、休みの日などあいている時間を有効利用して、グループ内で協力して準備をしました。財務データから数値を求めて、Excel を使ったの散布図の作成や、より分かりやすい表現で英語の原稿を作ることに大変苦労しました。また、アクセントや、イントネーションに注意して聞き取りやすい英語で発表する練習をしました。

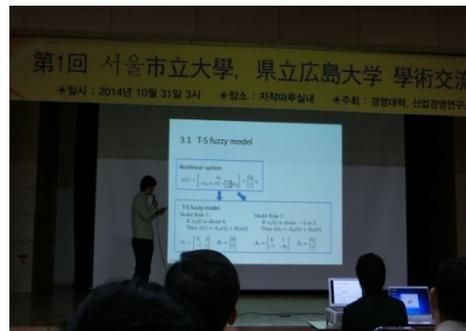
この写真は発表当日、みんなで最後の確認作業をしたときのものです。他のグループの人とお互いに発表を聞きあうことでより良い発表のためのアドバイスをしあうことができました。



私たちのグループの発表は4番目でした。約100人入れる規模の会場で、たくさんの学生や教授が見に来て下さいました。大勢の人の前で、英語で発表する機会が今までなかったのととても緊張しましたがとてもいい経験をする事ができました。

### 《日本の学生の発表》

最初のチームの発表は Fuzzy control についてでした。私たちが知らない分野で、内容がとても難しかったですが、この制御システムが地下鉄や家電製品にも使われていると知り興味を持ちました。



最後のチームは OSAKA SAMURAI SPIRIT についての発表でした。大阪を観光する際のプランの提案で、日本の伝統について学び、実際に剣道やサムライの体験をすることができた内容となっていました。大阪でそのような体験ができることを知らなかったのが新しい発見となりました。

## 《韓国の学生の発表》

これはソウル市立大学の最初のチームの発表写真です。彼女はソウルの観光産業の経営経済に関する問題を議論しました。素晴らしい英語で小さい商店街の発展戦略を指摘されました。



以上の二枚写真は二番目のチームです。発表者一人で、流暢な英語で「ソウルの地下鉄の Design thinking 」に関する研究を発表しました。学部の二年生だけれども、発表も質問の回答も全部英語で説明していました。本当にびっくりしました。私たちは反省の必要があると思います。これから、日本の学生たちと一緒に英語の対話練習を頑張ります。



最後のチームは「統合型マーケティングの宣伝戦略—Healthy & Tasty Seoul's Tap Water の事例研究」の題目として発表しました。彼らの発表はユーモアがきいていました。楽しい雰囲気の中で、発表を聞いた後、統合型マーケティングの宣伝戦略に関する問題を議論しました。

## 韓国の学生との交流

今回の研修において、ソウル市立大学側から4人の学生たちが、私たちにソウル市内を案内してくれました。私たちは仁寺洞という、韓国の伝統的なものが数多く残る場所を訪れました。

仁寺洞の通りには、骨董品や伝統的なものをアレンジした小物を売っているお店が多く見られ、裏路地に入ると、韓国の伝統茶を体験できるお店などがありました。看板は規制によりすべてハンゲル表記のため、見ていてとても新鮮に感じました。



仁寺洞についてからは、数人ずつ分かれて通りを散策しました。散策途中には、韓国の伝統衣装である「韓服（チマチョゴリ）」を着た方に出会い、記念に一緒に写真を撮っていただきました。今回は機会がありませんでしたが、自分たちでも韓服を着てみたいと思いました。



夕食は、韓国の伝統料理や食事のマナーなど、韓国の文化について教えてもらいながら、楽しく食事をしました。

「ホットク」という菓子料理が特においしかったです。

発表会後には、歓迎パーティーを開いてくださいました。そこでは、ソウル市立大学の学生と先生方で韓国の伝統的な料理である、「プルコギ」を食べました。お互い、日本語や韓国語ができずにコミュニケーションをとるのに苦労しましたが、英語やボディランゲージを使いながら楽しく交流することができました。



カカオトークや facebook



などの SNS の交換もしたので、今後も交流を深めていきたいと思います。

## 韓国文化に触れて

最終日はソウル市内の歴史的建造物などをめぐりながら、韓国の歴史や文化について学びました。韓国人である朴唯新教授にわかりやすく解説していただき、日本と韓国の関係など、理解を深めることができました。

- ▽ソウル駅旧駅舎
- ▽姜宇奎銅像
- ▽南大門
- ▽南大門市場
- ▽徳寿宮
- ▽世宗大王銅像
- ▽李瞬臣將軍銅像
- ▽光化門





ソウル駅は、東京帝国大学教授の塚本靖さんにより設計されたもので、現在ではその役目を終え、文化財として保存されているそうです。

日本人が設計したことにとっても驚きましたが、東京駅に雰囲気似ているように感じました。

市場は、人も多く活気に満ち溢れていました。日本のアメ横のようだと感じました。



韓国の5大王宮のひとつである徳寿宮を訪れた際に、入口である大漢門の前で、王宮を守る兵士たちの勤務交代式の再現が行われていました。貴重な場面に遭遇でき、とてもうれしく思いました。今回は時間がなく、中に入ることはできませんでしたが、また機会があれば是非行ってみたいと思います。

様々なところを巡って、韓国の文化や歴史、日本との関係などを勉強することができました。実際にその地を訪れ、文化に触れることで視野が広がったと思います。

## まとめ

今回、記念すべき第1回ソウル市立大学との学術交流会に参加できたことをとても光栄に思っています。しかし、自分たちの発表では満足のいく結果が出せませんでした。英語での発表ということで苦労もたくさんありました。もう少し準備期間があればよかったと反省しています。また、ソウル市立大学の学生の発表はとてもレベルが高く、良い刺激になりました。

今回の学術交流会を終えて私たちが強く感じたことは、もっと英語力を身に付けたいということです。発表内容を理解するだけでなく、質疑応答も英語でしていたソウル市立大学の学生と比べると、私たちとの差は歴然としていました。また英語は、学生たちと交流する際にもお互いの共通言語になることを改めて実感することができました。

今回の研修を通し、多くのことを学ぶことができました。また、自分たちに足りていないもの、これから何をすべきかという課題もたくさん見つけることができました。就職活動前にこのような機会を作ってくくださったことに感謝しています。この経験を大いに活かしていきたいと思います。

# 目次

1. はじめに
2. 日程
3. 一日目
4. 二日目
  - (1) 学内散策
  - (2) 発表準備
  - (3) 研究発表会
  - (4) 歓迎会
5. 三日目
  - (1) LOTTE MART
  - (2) ソウル駅から光化門にかけて散策
6. 感想



## 1. はじめに

我々は、2014年10月30日から11月1日までの3日間ソウルへ行きました。ソウル市立大学・県立広島大学交流会での発表やソウル市立大学生との交流、文化交流等を行い、学んだことを報告します。

## 2. 日程

10/30	午前	広島空港発 仁川国際空港着 空港にて昼食（韓国料理）
	午後	ソウル市立大学到着 仁寺洞（インサドン）観光ーソウル市立大学生と交流・夕食
10/31	午前	発表準備 大学内散策 学生街にて昼食（韓国風中華料理）
	午後	ソウル市立大学・県立広島大学研究発表会 歓迎会
11/1	午前	ソウル観光ーROTTE MART、南大門など ソウル市内にて昼食
	午後	仁川国際空港発 広島空港着

### 3. 1日目

#### 仁寺洞（インサドン）観光

初日はソウルの鐘路（ショウロ）区にある仁寺洞という街を訪れました。仁寺洞は韓国のような食文化や芸術文化を知ることができる、ソウル市内でも極めて人気の高い観光地です。私たちはソウル市立大学の学生の案内のもと、メインストリートを散策しました。

平日にも関わらず、通りは多くの人や屋台で賑わっており、私たちはそこでソウルマッコリやトッポギといった韓国名物を味わいました。また、路上では韓国の伝統舞踊のひとつである長鼓舞（チャンゴチュム）が行われており、現地の舞踊文化を実際に肌で感じることができました。そして、日本でも馴染みのあるビビンバやチゲスープなど、様々な韓国料理を堪能できる飲食店で夕食をとりました。その際、ソウル市立大学の学生に料理の正しい食べ方を教えてもらい、お互いの国の文化や言語について質問し合うなど、とても有意義な交流の時間となりました。

また、今回私たちが訪れたほぼすべての店に外国語表記の案内があり、日本語に堪能な店員の方も多かったことから、仁寺洞という街が外国人観光客にとっていかに人気で観光しやすい街であるかを実感することができました。



#### 4. 二日目

##### (1) 学内散策

二日目にはソウル市立大学の敷地内を散策しました。敷地内は広く、全てを見ることはできなかったものの、自然豊かなキャンパスの雰囲気を味わうことができました。また、学内の広場には学生以外に市民（子どもや高齢者など）もおり、地域に開かれた場なのだと感じられました。

学内の建物には「第一回ソウル市立大学，県立広島大学 学術交流会」と書かれた横断幕が掲げられており，歓迎していただいていることを実感しました。



##### (2) 歓迎会

研究発表会の後は，私たちの歓迎会をしていただきました。韓国の名物料理プルコギを食べながら，ソウル市立大学の学生との交流を行いました。この歓迎会では，お互いの国の食文化や伝統文化，言語などについて話したり，日本に訪れたことのある学生に日本の印象を聞いたりすることによって，異文化理解を深めることができました。

ソウルの学生は皆日本語が上手く，私たちの質問などにも丁寧に答えてくれました。そのため，問題なくコミュニケーションをとることができ，楽しみながら韓国について，また韓国から見た日本について知ることができました。



### (3) 発表準備

発表準備では、パワーポイントや原稿の最終確認を行いました。特に、原稿の確認を主にしました。英語でプレゼンテーションをするという機会はなかなかないので、発表前はとても緊張していました。



### (4) 交流会

交流会では、ソウル市立大学と県立広島大学の生徒が交互に発表しました。私たちの発表は、最後でした。ソウル市立大学の生徒は英語が堪能で、質疑応答のときは母国語で話して良いようになっていましたが、英語で話す方がいて、とても驚きました。また、それと同時にもっと英語を話すことができるよう努力する必要があると感じました。

私たちは「OSAKA SAMURAI SPIRIT」についての発表を行いました。その内容は大阪の殺陣・剣道・チャンバラを組み合わせたツアーです。私たちの番になったとき、はじめはとても緊張していましたが、徐々にほぐれ、自分のペースで話すことができました。英語でプレゼンテーションをする機会はなかなかないので、とても良い経験となりました。また、ソウル市立大学生の方の発表を聞き、刺激を受け、より一層勉強していきたいと感じました。



## 5. 3日目

### (1) LOTTE Mart

三日目はまず、LOTTE Mart で買い物をしました。LOTTE Mart とは、韓国の大型ディスカウントストアです。明洞や南大門といった観光地が周辺にあること、また交通の要所であるソウル駅から近いこともあり外国人観光客の姿も多く見られました。

店内には大きな荷物や紙袋を持って入ることが出来ないため、ロッカーや顧客センターで荷物を預けないといけないことや、一つ買うともう一つ同じものがついてくるといった「1+1」の商品が置いてあることなど日本ではあまり見られないシステムが見られ印象に残りました。買い物一つをとって試してみても韓国と日本の違いは多く韓国の文化を知ることが出来たように感じます。



(2) ソウル駅から光化門にかけて散策



午後はソウル駅から光化門にかけての道を 40 分ほどかけて散策しました。旧ソウル駅や南大門といった歴史的建造物や、ハングルを作ったとされる世宗大王や韓国の英雄である李舜臣などの銅像を目にすることが出来ました。中でも大漢門の前で見ることでできた兵士たちの勤務交代式の再現は圧巻でした。

短い時間で、狭い範囲の見学ではあったものの多くの韓国の文化に触れることが出来、実に充実した時間となりました。



## 6. 感想

ソウル市立大学への学術交流は、特に英語で発表する機会はなかなかなかったので参加してとても良い経験となりました。また、韓国の文化体験や学生との交流で韓国のことをより知ることができました。このような貴重な機会を与えてくださった皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。(久保田)

今回の韓国研修で印象に残ったのは、二日目の研究発表会です。韓国の学生の発表は完成度が高く、大いに刺激を受けました。発表だけでなく質疑応答も英語で行っているグループもあり、学生の意識の高さを知ることができました。また、学生との交流ではお互いの国の文化について理解を深めることができよかったです。もう一度韓国に行きたいと思えましたし、このような機会があればまた参加したいとも思いました。このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。(中野)

私は今回の学術交流会において、多くの韓国の学生が英語でお互いにコミュニケーションをとっていることに刺激を受けました。語学を勉強することで現地の方との会話が可能になるだけでなく、国際的な視点で物事を捉え、他国の文化を理解することにもつながると感じました。(難波)

今回の韓国研修は、私にとって貴重な体験となりました。特にソウル市立大学の学生との学術交流は大きな刺激となりました。韓国の学生の発表は英語能力やプレゼンテーション能力が非常に高く、私も見習わなければならないと強く感じました。これからの残りの学生生活にこの韓国研修の経験を活かしていければと思います。今回はこのような貴重な機会を与えてくださり大変ありがとうございました。(日野)